

環境教育・国際協力（1-G-10-4～1-G-12-1）

本セッションでは、環境教育と国際協力に関する6件の発表が行われた。

1-G-10-4は、水のある風景において、その景観に与える水質の役割を検討するために皇居外苑濠を調査フィールドにした報告である。今後、水質と景観を融合した学際的な研究手法の確立を期待したい。

1-G-11-1は、富栄養化問題をテーマとする体験型環境学習教材を、AGP試験を活用し、小学校の理科および社会の教科に関連させて開発したものである。演者は指導者に負担感を持たせない教材を意図しており、このことが学校教育において教材を活用してもらうポイントであると思われる。このような教材開発は水環境学会の社会貢献の一つであろう。

1-G-11-2は、中国における、水環境教育としての簡易法による水質調査国際協力プロジェクトの報告である。これまでの活動の中で生じた問題を解決しつつ、調査活動への市民団体や大学生等の参加人数が増えており、成果が上がってきている。今後、中国の市民による主体的な水環境保全活動に進展することが期待される。

1-G-11-3は、昨年に引き続き、京大・マラヤ大・精華大が共同で、通信状況によって生じるリスクを少なくするためにe-learningの各種の方法を構築し、環境工学教育を実践した報告である。依然多くの課題があるとのことであったが、このシステムを構築するための3大学間の協働のプロセスにより、指導者・学生間の相互理解が進展し、国際協力の基礎になるとと思われる。

1-G-11-4は、日本とタイの共同水環境教育プロジェクトを実施してきたグループが、日本水環境学会が環境省の委託を受けて開発した「水環境健全性指標」の環境教育の分野における有効性について検討した報告である。日本とタイの河川において実施し、「水環境健全性指標」の課題も明らかになったものの、環境教育の視点からは、指標性の意味を問うことにより、水環境の問題を明確にするツールとしての可能性が指摘された。

1-G-12-1は、ベトナムにおける淡水魚の養殖・流通が衛生学的な問題にどのように影響しているかを調査した報告である。ベトナムにおいては、家畜尿尿を再利用する資源循環型水産養殖が行われているが、養殖魚の生産、流通がともに、腸管感染症などの水系感染症の伝播経路となる可能性が示唆された。環境の視点からは注目を集める資源循環型産業であるが、感染症のリスク軽減の必要性が示された。

（千葉県環境研究セ 小川 かほる）